様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 8 日現在

機関番号：37402
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20520451
研究課題名（和文）　多機能搭載型電子版ディケンズレキシコン作成とその活用研究
研究課題名（英文）　the *Dickens Lexicon* with a multifunctional information retrieval system and its practical use for linguistic research
研究代表者
堀　正広（HORI MASAHIRO　）
熊本学園大学・外国語学部・教授
研究者番号：20238778

研究成果の概要（和文）：山本忠雄著 *Growth and System of the Language of Dickens* (1950)に基づいた多機能搭載型電子版 The *Dickens Lexicon* は Dickens Lexicon Online として近い将来一般公開する基盤が構築された。

研究成果の概要（英文）：The *Dickens Lexicon* based on Tadao Yamamoto's *Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to A Dickens Lexicon* (1950) will be released as the "Dickens Lexicon Online" on an internet website with a multifunctional search engine, in the near future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008　年度	900,000	270,000	1,170,000
2009　年度	800,000	240,000	1,040,000
2010　年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：英語学・文体論
科研費の分科・細目：言語学・英語学
キーワード：レキシコン・ディケンズ・イディオム・コンピュータ・コーパス・英語史・19 世紀・18 世紀

１．研究開始当初の背景

英語英文学研究者として初めて日本学士院賞を受賞された故山本忠雄博士の *Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to A Dickens Lexicon* は、副題にあるように *Dickens Lexicon* の作成を最終目標として書かれた Introduction である。山本博士の *Dickens Lexicon* 作成の構想は、1941 年頃にまでさかのぼる。この構想は当時の『英語青年』に紹介され、用例収集の様子は 1943 年の『英文学研究』(Vol. XXIII, No. 3）の Correspondence に記されている。1942 年頃、山本博士の研究活動に協力する *Lexicon* 作成のための研究会が広島大学の桝井迪夫教授を中心に作られた。その他のメンバーとして、黒瀬保、東田千秋、神津東雄、吉田安雄、五島忠久、松本淳、松浪有、廣岡英雄、河井迪男氏らが含まれている。この共同研究は十分に機能しなかった。

その後人数も制限されて、東田千秋、吉田安雄、松本淳、河原重清の各氏で作品を分担して行なわれた。その成果の一部が、『ディケンズの文体』(南雲堂、1960）にまとめられた。しかし、この共同研究においても共同でカードを収集することの難しさに直

面し、共同研究は中止となった。

それ以降は、山本博士独力で用例の収集に当たられ、初期の作品 *Pickwick Papers* (1836-7) からもう一度作品の年代順にカードが集めた。しかし、*Lexicon* は完成されることなく 1991 年に他界された。1997 年、遺族から山本博士の蔵書を母校大阪大学に寄贈したいとの申し出があり、蔵書の整理中に書斎の一角で、6 万枚の膨大なカードが発見された。

２．研究の目的

本研究は、*Dickens Lexicon* の作成を最終目標として書かれた Introduction である *Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to A Dickens Lexicon* （1946 年東京大学より文学博士の学位を授与し、1950 年に出版され、2003 年第 3 版の改訂版（溪水社）が刊行）の著者、故山本忠雄博士（1904—91）（元広島大学、神戸大学教授）が構想した *Dickens Lexicon* を、コンピュータ技術を駆使して様々な機能を搭載し、Dickens の言語文体研究のみならず、18 世紀、19 世紀の英国小説家の言語文体研究に寄与することを目的とした研究者 20 名によるプロジェクトである。

本 *Lexicon* は冊子体資料ではなくオンライン上で一般公開する。この *Lexicon* は、山本博士が収集した用例カード約 6 万枚の全データを電子化し、見出し語、作品からの本文引用、定義とその典拠となる辞書名、品詞、類例、注釈、*OED* における当該箇所の引用等の情報に関する複合検索機能を実装する。また，*Lexicon* の付加機能として Dickens の全作品および 18、19 世紀を代表する作家の主要作品のテキストを収録し、全文検索が可能なエンジンを実装する。さらに、本 *Lexicon* を利用した Dickens の言語文体研究のみならず、18 世紀、19 世紀の英国小説家の言語文体研究に関する論文集を同時に刊行する。世界の研究者の利用を目的としているためすべて英文で書かれ、海外の出版社から刊行予定である。

３．研究の方法

Lexicon 作成のために、研究者 20 名によるプロジェクトチームが結成され、次のような作業を行ってきた。まず、山本博士が作成したカード 6 万枚をアルファベット順に並べ、アルファベット毎に枚数を確認し記録した。手分けしてカードをファイルメーカーに入力。free texts のサイトである Gutenberg 等から Dickens の全作品のテクストをダウンロードし、編集して電子テクストを作成した。その電子テクストからコピーアンドペーストして引用を長めにし、引用箇所を充実させた。Dickens の全作品だけでなく、19 世紀と 18 世紀の主要な作家の電子テクストも搭載した。現在は、定義項目の充実と刊行する際の最終的な完成版の調整、本 *Lexicon* を使った研究論文の作成を行っている。

４．研究成果

Dickens Lexicon 作成プロジェクトでは、次のような成果が得られた。

（1）山本博士が収集した6万枚のカードをすべてコンピュータに入力し、作品からの引用、定義、辞書、コメントなどカードに記載されているすべての情報も入力を終了した。

（2）Dickensの全作品の電子テクスト化を終了し、コンコーダンス作成ソフトを使って検索可能な機能を実装した。

（3）Dickensの言語文体研究のみならず18世紀、19世紀の英国小説の言語文体研究に寄与することを目的として、18、19世紀を代表する作家の主要作品の電子テクストを完成した。機能としては、単純な語句検索だけでなく、コンコーダンス作成機能を搭載し、Dickensの作品だけでなく、18世紀や19世紀の作家の言語使用も調査研究できるように配慮した。今後さらに作品数を増やす予定である。

（4）山本博士のカードに定義が入っていないデータに関して、点検し定義入力を行っている。これまで、*Sketches by Boz, Bleak House*を終了した。*Pickwick Papers*等の初期の作品ももう少しで終了する。

（5）国外・国内の学会誌や学会で成果を発表した。1つだけここで言及すると2010年7月に英国ロンドン　King’s College London で開催されたDigital Humanities 2010のポスターセッションに参加し、最優秀ポスターセッション賞に選ばれた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

①堀正広・田畑智司・今林修・西尾美由紀・地村彰之、The *Dickens Lexicon* Projectと *Lexicon* の利用法――コンピュータを利用した英語学習と研究の紹介を含む――、大阪大谷大学英文学会『英語英文学研究』、査読有、第38号、2011、143-202

②堀正広、[書評] Keisuke Koguchi *Repetition in Dickens's* A Tale of Two Cities*: An Exploration into His Linguistic Artistry*（溪水社）近代英語協会『近代英語研究』、査読有、第 27 号、2011、185－192

③田畑智司、歴代米国大統領就任演説の言語変異、日本英語コーパス学会『英語コーパス研究』、査読有、2010、第 17 号、143-159

④田畑智司、TF-IDF 値を通してみるテクストの特徴、多変量アプローチによるテクストの計量研究、査読無、2010、47-62

⑤地村彰之、[書評] Lynda Mugglestone ed., *The Oxford History of English*, (Oxford: Oxford University Press, 2006)、近代英語協会『近代英語研究』、査読有、第 26 号、2010、79-85

⑥堀正広、[書評]A.P. Cowie 編（南出康世・石川慎一郎監訳）『慣用連語とコロケーション』　（くろしお出版、2009 年 4 月）『英語教育』2009 年 9 月号、査読無、93

⑦堀正広・田畑智司・今林修・地村彰、The Dickens Lexicon Project、広島英語研究会、*ERA*第25号、2008、43-53

⑧堀正広、日本文化は英訳できるか―宮本武蔵著『五輪書』の場合、熊本学園大学付属海外事情研究所『海外事情研究』第 33 巻第 1 号、2008、63-80

〔学会発表〕（計 15 件）

① 堀　正広、Development of idioms in Dickens: With special referent to the idiom "line of business"、 Poetics and Linguistics Association、 2010年7月24日、ジェノア大学（イタリア）

②今林修、Descriptions on grammar and usage in the Dickens lexicon、Poetics and Linguistics Association、 2010 年 7 月 24 日、ジェノア大学（イタリア）

③西尾美由紀、The development of idiomatic expressions in Dickens 、 Poetics and Linguistics Association、2010 年 7 月 24 日、ジェノア大学（イタリア）

④ 田畑智司、A multivariate approach to linguistic variations in the Century of Prose Corpus Part B: An experiment in corpus stylistics、Poetics and Linguistics Association、2010 年 7 月 24 日、ジェノア大学（イタリア）

⑤堀正広・今林修・高口圭輔・田畑智司、シンポジアム：多機能搭載型電子版 Dickens Lexicon を使った研究の可能性、熊本大学英文学会、2010 年 11 月 20 日、熊本大学

⑥堀正広・今林修・田畑智司・西尾美由紀、ポスターセッション、*The Dickens Lexicon* and its Practical Use for Linguistic Research、Digital Humanities 2010、2010 年 7 月 9 日、英国、キングズカレッジ　ロンドン

⑦ 堀　正広、Idiomatic and Collocational Deviation in Dickens' *Pickwick Papers*、九州英文学会、2010 年 10 月 30 日、九州大学

⑧地村彰之,他 Some textual discoveries from a multi-layered comprehensive collation across the Two Manuscripts (Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions (Blake (1980) and Benson (1987)) of *The Canterbury Tales*, The 17th Congress of the New Chaucer Society、2010 年 7 月 19 日、シエナ（イタリア）

⑨堀正広、田畑智司、今林修、西尾美由紀、Symposium: the *Dickens Lexicon* and its Practical Use for Linguistic Research, SHELL2009: The Third International Conference of the Society of Historical English Language andLinguistics, 2009 年 8 月 29 日、広島大学

⑩堀正広、田畑智司、今林修、地村彰之、

西尾美由紀、シンポジウム　the *Dickens Lexicon Project* の現状と言語研究のための *Lexicon* の利用法（招待講演）、大阪大谷大学英文学会講演・講習会、2010 年 1 月 7 日、大阪大谷大学

⑪ 今林修、The *Dickens Lexicon* Project、ELLAK 2010（招待講演）、2010 年 12 月 4 日、韓国大田市コンベンションセンター

⑫堀正広（司会、講師）、田畑智司（講師）、他、シンポジウム「これからのコロケーション研究」、日本英語学会、2009 年 11 月 15 日、大阪大学

⑬堀正広、機能語のコロケーションとその読み（招待研究発表）、日本英文学会中国四国支部大会、2009 年 10 月 25 日、鳥取大学

⑭田畑智司、More about *gentleman* in Dickens、Digital Humanities 2009、2009 年 6 月 22 日、University of Maryland, USA

⑮今林修、The Dickens Lexicon Project: A Preliminary Report、Poetics and Linguistics Association、2008 年 7 月 24 日、英国シェフィールド大学

〔図書〕（計 14 件）

①堀正広、研究社『例題で学ぶ英語コロケーション』、2011、209

②堀正広、研究社『英語コロケーション研究入門』、2009、239

③堀正広、ひつじ書房、コロケーションの通時的研究、2009、1-20、145-181

④堀正広, 他、Red Moon, USA, *Poetic Composition on Living Things: Kaneko Tohta*, 2011, 91（共同翻訳のため抽出不可）

⑤今林修、Peter Lang, *Aspects of the History of English Language and Literature*, 2010, 159-171

⑥西尾美由紀、Peter Lang, *Aspects of the History of English Language and Literature*, 2010, 173-183

⑦堀正広、ひつじ書房、『英語研究の次世代に向けて』、2010、253-264

⑧地村彰之、Peter Lang、*Aspects of the History of English Language and Literature*、2010、93-100

⑨地村彰之、英宝社、『英語教育への新たな挑戦―英語教師の視点から―』、2010、184-192

⑩地村彰之、渓水社、『中世ヨーロッパの祝宴』、2010、145-73

⑪今林修、英宝社、『英語教育への新たな挑戦―英語教師の視点から―』、2010、193-201

⑫堀正広、Peter Lang, *Stylistic Studies of Literature*, 2009, 95-112

⑬田畑智司、Peter Lang, *Stylistic Studies of Literature*, 2009, 113-134

⑭堀正広,他、研究社、『ライティングのための英文法ハンドブック』、2008, 249-272

〔産業財産権〕

○出願状況（計　件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

堀　正広（HORI MASAHIRO）

熊本学園大学・外国語学部・教授

研究者番号：20238778

(2)研究分担者

田畑　智司（TABATA TOMOJI）

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：10249873

(3) 研究分担者

今林　修（IMAHAYASHI OSAMU）

広島大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：90278987

(4) 研究分担者

地村　彰之（JIMURA AKIYUKI）

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：00131409

(5) 連携研究者

島（西尾）　美由紀（Shima (NISHIO) MIYUKI）

近畿大学・工学部・講師

研究者番号：50549524